

## 主催者挨拶

鈴木 俊一  
環境大臣

環境大臣の鈴木俊一でございます。国会の都合により、昨日は御挨拶できず、失礼いたしました。

この度、国内外から多くの研究者、行政関係者、そして県民・市民の皆様に御参集頂き、「第5回内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」を盛大に開催することができまして、主催者として心から御礼申し上げます。

内分泌攪乱化学物質による人や生態系への影響については、現代に生きる私たちだけではなく、将来の世代への影響も懸念される重大な問題でありながら、科学的知見が十分に集まっていないという現状です。

こうした問題に対応し、安全で安心な社会を築いていくためには、国際的な協力を積極的に進めつつ、内分泌攪乱化学物質問題の科学的解明をさらに進め、その対策につなげていくことが、環境行政に求められている重大な任務であると考えております。

このため、環境省では「環境ホルモン戦略計画－SPEED'98」を策定し、取組を進めています。これまでに一部の工業用洗剤の原料について、魚類に対する内分泌攪乱作用を有することを明らかにしました。一方、取組のひとつである国際協力の一環として、平成10年度から毎年、国際シンポジウムを開催しております。

昨日は、一般向けプログラムとして、堤教授による特別講演、国内外の取組の現状の紹介及びパネルディスカッションが行われ、活発な議論が展開されたと聞いております。本日より2日間は、専門家向けプログラムとして、国内外で得られた最新の知見について発表頂くとともに、より活発な意見交換を行う場として、本年度はディスカッションの時間も設けており、科学的・専門的な立場から質の高い議論を進めて頂きたいと思っております。

本シンポジウムが、内分泌攪乱化学物質問題に対する理解、さらには解決につながる充実したものになることを期待いたしております。

最後になりましたが、本シンポジウムの開催準備に多大な御協力を頂きました「環境ホルモン学会」の会員の皆様方、「広島県・広島市」、「広島大学」、(御支援頂きました先生方)をはじめ関係者の皆様方に心からお礼を申し上げまして私の御挨拶とさせていただきます。